

---

## 「近年の脳静脈洞血栓症の傾向に対する検討」に関するお知らせ

---

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学国際医療センター倫理審査委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

### 研究の概要について

#### 1. 研究の対象となる方

2007年4月1日から2023年10月31日の期間に埼玉医科大学国際医療センターを受診し、脳静脈洞血栓症と診断され、入院加療した患者さんを対象としております。

#### 2. 研究の目的

脳静脈洞血栓症は脳卒中の中でもその割合が0.5%と希少な疾患です。その為、本邦においていくつかの報告例は散見されますが、統計的に解析された文献はさらに希少です。また低容量経口避妊薬との関連が報告されており、旧来より罹患の若年化が想定されます。

本研究では脳卒中センターの豊富な症例数を活かし、統計的に解析することによって本邦における今後の脳静脈洞血栓症の予防・治療の一助となるような研究を行います。

#### 3. 研究期間

病院長の許可後～2026年3月31日

#### 4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1ヶ月程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

### 研究に用いる試料・情報について

#### 1. 試料・情報の内容

年齢・性別、CT・MRI/MRA、脳血管撮影画像、頸動脈超音波、心電図、心臓超音波、心臓CT、採血データを抽出するとともに、脳静脈血栓症発症のリスク因子（高血圧、糖尿病、脂質異常症、冠動脈疾患、脳卒中の既往や内服歴・生活習慣として喫煙など）、脳静脈血栓症の入院時重症度・病型・閉塞部位・閉塞血管、治療内容、退院時転帰、当院最終受診歴、転医先から報告書を検討します。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者である尾立樹一郎が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

## 2. 試料・情報の取得方法

急性期脳梗塞と診断され入院加療した患者さんの診療録、検査データを用います。

## 3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

研究実施者は以下の当院医師になります。

脳神経内科・脳卒中内科

- （役職） 教授 須田 智
- （役職） 教授 加藤裕司
- （役職） 教授 高橋慎一
- （役職） 教授 林 健
- （役職） 講師 中上 徹
- （役職） 助教 新井徳子
- （役職） 助教 尾立樹一郎
- （役職） 助教 木村龍太郎
- （役職） 助教 藤原史奈子
- （役職） 専攻医 渡邊開斗
- （役職） 専攻医 上田颯英

脳神経外科

- （役職） 教授 栗田浩樹
- （役職） 講師 柴田碧人

脳血管内治療科

- （役職） 教授 神山信也
- （役職） 准教授 芳村雅隆

## 4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター 病院長 佐伯俊昭

### お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中内科 尾立樹一郎

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1387 - 1

電話：042-984-4359（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：**近年の脳静脈洞血栓症の傾向に対する検討**

○研究責任（代表）者：埼玉医科大学国際医療センター 脳神経内科・脳卒中内科 尾立樹一郎